

# 道徳学習指導案

授業者 野中 千恵

- 1 日時 平成18年10月10日(火) 13:30~14:20
- 2 学級 第3学年B組 (男子17名 女子13名 計30名)
- 3 場所 3年B組教室
- 4 主題名 「強い意志」 [1-(2)]
- 5 ねらい 晩秋の夕焼けが『頑張れよ』と語っているようだったと思ったときの「和也」の気持ちを通して、夢や目標に向けて着実にやり抜いていこうとする強い意志と意欲を育てる。
- 6 資料 「続・それぞれの秋」 (自作資料)

## 7 主題設定の理由

### ○主題観・価値観

内容項目1-(2)は「より高い目標を目指し、希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」とある。中学校3年生のこの時期は、部活動も終了し卒業後の進路について真剣に考える時期である。しかし、高校受験を控えて、勉強しなければならない気持ちがありながらなかなか実行できない現実がある。また、将来に対する不安や焦りの中で、目標を失ったり、迷ったりすることもある。悩む自分を受け入れ、自分の進路の目標をしっかりと定め、希望と勇気を持って実行するとともに、困難に直面しても夢や目標に向かって粘り強く取り組んでいける強い意志と態度を育てていきたいと考え、本題材を設定した。

### ○生徒観

6月の高校訪問学習では、ほとんどの生徒が事前学習から意欲的に取り組み、各高校から訪問マナーや学習意欲などに対して高い評価をいただいた。訪問学習、三者懇談、オープンスクールにより、自分の進路に対する関心が深まりつつあった。しかし、10月の県総体へ出場する生徒が多かったため、大会終了後は張りつめていた気持ちが抜け、勉強へと気持ちが向いていない生徒が多いのが現状である。

生徒への事前アンケートでは、「小さい頃の夢？」という質問に、看護師・野球選手・サッカー選手・花屋・パイロットなど、さまざまな夢を持っていた。しかし、今「将来の夢は？」と聞かれると、行動する前にあきらめてしまったり、「ない」「わからない」などと答える生徒がかなり多かった。

学校生活の中でも、自分の好むことや価値を認めるものに対しては、意欲的に取り組むが、障害や困難に直面すると、簡単にあきらめたり挫折してしまう傾向の生徒もいる。現時点では自分にふさわしい進路の目標を明確に持ち、それに向かって粘り強く取り組んでいる生徒は少ない。

### ○資料観・指導観

1学期に1-(5)充実した生き方の追求として自作資料「それぞれの秋」を使用した。自分達の中学校生活と重なる内容から、生徒にとっては身近な教材であったようだ。今回はその続編として1-(2)強い意志の主題に迫っていけるように自作資料の制作を試みた。

主人公の「和也」のもとにS高校バスケットボール部監督から勧誘の声がかかる。将来バスケットボールの指導者になりたいという夢に向かって、F高校に進学するための受験勉強を始めた和也だったが、この勧誘でS高校かF高校か悩むという葛藤のある内容である。

S高校からの勧誘を断って、学校を引き上げて帰る「和也」の思いに共感させ、夢や目標に向かって頑張り抜く強い意志が芽生えたことに気づかせたい。

さらに目標が達成されたときの喜びや達成感が、自信や勇気になり、自己の可能性を伸ばし、人生を切り拓いていこうとする原動力になっていくことに気づかせ、より高い目標に向かって粘り強く実行していこうとする意志と意欲を持たせたい。

8 学習指導過程

段階	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点	評価の観点 (○教師、※生徒)
導入	1. 県総体に出場した感想を出し合う。	○県総体に出場してどうでしたか ・緊張した ・1勝したかった ・雨で中止になって残念だった ・これで終わりと思うと寂しい	○県総体のスナップ写真を提示し、話しやすい雰囲気をつくる。	○リラックスした雰囲気をつくれたか。  ※進んで発表しようとしているか。
展開前段	資料前半 2. 登場人物をとらえる。 (場面把握)  3. 揺れ動く主人公の気持ちを考える。	○「それぞれの秋」を覚えていますか。 【和也の夢は何だった？】 ・バスケットの指導者になる  ○足取り重く階段を上がる「和也」の気持ちは？ ・受験勉強をするのはつらい ・3時間はつらい ・やろうと思っているのに母がうるさい  ○「和也」はどうすればいいと思いますか。 【スカウトを受ける？断る？その理由も考えてください】 <受ける> ・確実に高校に行ける ・もう勉強しなくてもよい ・認められたことが嬉しい ・バスケで全国に行ける <断る> ・自分が希望していたことではない ・簡単に楽をして高校に行きたくない ・F高校の決意を変えたくない ・将来の夢に向けて頑張る	○登場人物等の絵を提示し、話を思い起こさせ、和也の夢を確認させる。 ○資料<前半>を配布し、朗読する。 ○資料を簡単に読み取らせる。  ○ワークシートに記入させる。 ○班で話し合いをさせる。 ○ネームプレートを提示し、各自の意見を出させ、意見交流させる。	○  ※進んで発表しようとしているか。  ※自分の考えを持ち、班に出し、意欲的に話し合いに参加していたか。  ※他者の考えを聞いて、自分の考えと比べ、考えを深めたか。
展開後段	資料後半 4. 主人公の心情をとらえる。  5. 自分を振り返らせる。 (価値の一般化)	◎晩秋の夕焼けが『頑張れよ』と語っているようだったと思ったときの「和也」の気持ちはどうだったでしょう。 ・この選択で良かったんだ ・悩んでいた気持ちが吹っ切れた ・本当にこれで良かったのか ・自分で決めた目標は最後までやり抜こうと思った ・夢に向かって頑張ろうと思った 【夢(目標)に向かって頑張ることが何で大切な？】 ・夢がかなったら嬉しい ○今まで何かをやり通して達成したという経験がありますか。 その時の気持ちはどうでしたか。 ・嬉しかった ・達成感を得た ・自信になった	○資料<後半>を朗読する。  ○ワークシートに記入後、発表させ意見交流させる。  ○事前アンケートをもとに、積極的に意見を出させる。	※自分の考えを進んで発表しようとしているか。 ※他者の考えを聞いて、自分の考えを比べ、考えを深めたか。  ○【キーワード】の言葉を使いながら、さらに考えを深めさせることができたか。
終末	6. 学習のまとめをする。	○自己評価ををワークシートに書きましょう。	○資料《終末》を朗読する ○ワークシートで自己評価させる。	○夢や目標に向かって努力することの大切さについて考えさせることができたか。

## 続「それぞれの秋」

もうすぐ11月・・・オレたちの中学校最後の1年間は、刻々と進んでいる。

— それぞれの秋 — 終末部分

僕と健二と孝一は小学校が同じで、ミニバスケットチームの仲間だった。全国大会出場をめざして3年間苦しい練習にも耐えてきた。全国大会出場をかけた県大会では、2回戦、優勝候補の前に力及ばず敗退し、ついに全国大会出場の夢は絶たれ、僕たちは3年間のクラブ活動に幕を閉じた。

あれほどいつも3人でバスケットの強豪高校であるS高校へ進学しようと、言ってきたにもかかわらず、僕は2回目の進路希望調査書にS高校ではなくF高校と書いて提出した。2人には悪いと思ったが、将来は学校の先生になって指導する立場でバスケットを続けたいと夏の大会が終わった頃から考え始めたのだ。F高校の普通科で学んで大学に行き、将来は小学校か中学校の先生になりたいと思うようになった。とは言え、F高校へ進学するにはまだまだ自分の実力では難しいということは、実力テストの結果や学校の成績からわかるのである。しかし、今はなんとか夢を実現したいと思い、クラブ活動から勉強に気持ちを切り替えて努力しているつもりだ。

(母)：「いい加減にしなさいよ。黙っていればいつまでもテレビを観て！  
3時間以上勉強するなら、今から始めると12時を過ぎるじゃないの。」

(和也)：「うるさいなあ。言われなくてもやるよ！！。」

『たいぎいなあ～』、足取り重く階段を上がって自分の部屋に向かった。

ある日の放課後、担任の先生が職員室に来るように言った。

(和也)：「失礼します。」

(担任)：「勉強は進んでいるか。」

(和也)：「一応頑張ってます。」

(担任)：「今日はS高校のバスケットボール部の監督から、是非お前にS高校でバスケットをやらないか、という話をいただいたんだ。なんでも、夏の県大会からお前のことが気になっていたそうで、入学後すぐにも今のセンターのポジションで使ってみたい選手だということだ。」

(和也)：「は・・・はい。」

(担任)：「全国でもベスト8に入る強豪チームらしいな。しかし、今のところF高校が第1希望だということを監督に話したよ。この話は本人に必ず伝えておきます、と返事をしておいたぞ。」

(和也)：「は・・・はい。」

(担任)：「F高校も良いかもしれないが、是非うちの高校でバスケットを！と何度も言われていたぞ。クラブ推薦で、入寮も一番に考慮してくださるそうだ。しかしなあ・・・返事を明後日には欲しいということなんだ。」

(和也)：「明後日ですか？」

(担任)：「突然なことで、しかも明後日には返事をしなきゃいけない。まあ、家の人ともよく相談するんだな。いずれにしても最終的には和也、お前が決めるんだぞ。」

(和也)：『S高校・・・。明後日・・・。』

S高校か・・・。これがスカウトっていうやつか・・・。僕は正直嬉しくてたまらなかった。その話にOKすると、くわしいことはわからないが、確実にS高校へ入学できるということがわかった。勉強の実力から考えると推薦でいけるなんて、とてもおいしい話かもしれない。でも、この話を受けてしまうと僕がやろうとしていたことはできなくなってしまうかもしれない・・・。

(父)：「スカウトされるなんてたいしたもんだ。でも、お前はF高校と決めて勉強を頑張るって、塾にまで通うようになったじゃないか。まだまだF高校受験の力は十分ないけど、ぼちぼちテストの点数も上がってきている。

S高校にはS高校の良さがあると思うし、F高校にはF高校の良さもあるだろう。お前は高校に行って何をしたいんだ？」

(和也)：「何を・・・？」

(父)：「どっちを選ぶにしても、最後は自分で決めることだぞ。」

(和也)：「自分で・・・。」

父に相談したが、結局決められない。考えれば考えるほど悩んでしまう。でも、明後日にはどうするかを決め、S高校の監督に返事することになっている。

いったい、いったい僕はどうすればいいんだ！！

— 資料 (後半) = 朗読

(S 高校監督) : 「そうか・・・残念だが、仕方ないな。頑張れよ。」

(和也) : 「はい。」

結局、自分の口から決断を S 高校監督に伝えた。受話器を置いた瞬間、本当にこれで良かったのか、少し不安を感じたのも正直なところだ。

学校から帰る途中、ふと空を見上げると夕焼けに気づいた。

晩秋の夕焼けが、僕に『頑張れよ!』と語ってくれているようだった。

### 《 終 末 》

あの時は真剣に悩んだ。やっぱり夢に向かって F 高校で学びながらバスケットも続けようと思ったのだ。後悔はしたくないので、あのは F 高校合格をめざして猛勉強をした。毎日最低 3 時間というのは、さすがにきつかった。その結果、なんとか F 高校に合格し、僕は今、F 高校で勉強し、放課後はバスケット部の練習に励んでいる。自分の意志で決めたこととは言え、F 高校が不合格になったらどうしようかと思うと、やっぱり S 高校を選ぶべきだったかと S 高校のことが頭をよぎることもあった。そんな時はなかなか勉強が思うように進まなくあせりと不安でいっぱいだった。

こんなことがあっただけに、合格発表で自分の受験番号が目に入ったときは嬉しくて涙が止まらなかった。F 高校を選んで良かったと心から思えた。

F 高校に入ったものの、勉強についていくのが精一杯というところだ。最低 3 時間の受験勉強どころではない。とにかく予習復習をしないと授業についていけない。でも、僕の夢「バスケットの指導者になる」ために、先生の資格が取れる大学への入学を目指し、頑張っている。

夢を叶えることは、言葉では簡単に言えるけど、なかなか大変なことなんだということがわかったような気がする。

不安を抱えながらも、最後まで勉強を頑張ってたつんだ F 高校合格の喜びと達成感を忘れず、これからも夢に向かって頑張っていきたいと思う。

「続・それぞれの秋」

3年( )組( )番 名前( )

○ 受ける ・ 断る

今日の道徳は ○印で答えなさい。

- 1 (楽しかった まあまあ楽しかった  
あまり楽しくなかった 楽しくなかった)
- 2 自分なりに時間いっぱい考えることが  
(できた まあまあできた あまりできなかつた できなかつた)
- 3 あなたの意見を考え直させるような意見がありましたか。  
(あった なかつた)
- 4 今日の道徳は  
(ためになつた まあまあなつた あまりためにならなかつた ならなかつた)